

ディレクトフォース

僕はディレクトフォースで、国際的に活躍している人の話を聞くのが楽しみでした。ディレクトフォースでは最初に田中伸男さんの話を聞きました。田中さんは、かつてIEAで働いていて、世界のエネルギー事情について話をしてくれました。IEAはエネルギーの番犬と言われています。田中さんは、ライバルであるIEAとOPECが協力して石油の未来を築いていくべきだとおっしゃっていました。僕も、世界を救うためには人間が一体とならなければいけないと感じました。また、ヨーロッパの国々ではエネルギーをシェアするというのを始めているそうです。パイプラインで国と国をつなげることで原子力発電をやめることができます。しかし、日本は島国のため他国とエネルギーを共有することが難しいそうです。そのうえ、近隣の国々との領土問題が深刻化しているため、より難しくなっています。中国では現在、原子力発電を進めています。日本は原子力の失敗を周りの国とシェアしていく必要があると感じました。

グループセッションでは、始めに守屋雅夫さんの話を聞きました。守屋さんは、食品化学を学んでキューピーへ入社し、商品開発の仕事をしているそうです。また、中国でマヨネーズの会社を作り中国にいた時期もあったそうです。僕たちは守屋さんにいくつか質問をしました。始めに、キューピーに入社したきっかけはなんですかと聞いたところ、近所にキューピーの工場があって、そこでアルバイトをしていたそうです。大学3年生の時に誘われて入社したとおっしゃっていました。次に、中国で会社を作った理由を聞きました。1992年に最初の会社を作り、だんだん売れるようになったため、2002年に本格的に中国での仕事を始めたそうです。次に、日本と中国の違いについて質問をしました。守屋さんは、日本は平和だとおっしゃっていました。中国は共産主義で一党独占のため、なんでも好きなことができるわけではないと教えてくれました。外国で働くのは、違う環境での苦労というものが多いのだなと思いました。最後に、食品開発で気を付けていることを聞きました。僕たちは、安全性という答えが返ってくると思っていましたが、安全性は常識だとおっしゃっていました。他社に勝ったおいしいものをつくること、その国の食文化を無視しないことを気を付けているそうです。守屋さんは、僕たちに失敗していいけれど、そのあと原因を考えることが大切と教えてくださいました。

グループセッション 2 回目は小林義之さんの話を聞きました。小林さんは外国でうまくやっていくには、現地の友達をつくるのが大切だとおっしゃっていました。また、文化の尊重にも限界というものがあるので、多様力をつけるべきだと教えてくれました。小林さんにもいくつか質問をしました。日中間の関係が悪いせいで苦労していることはありますかという質問に対して、中国の人の代表のような感じになって日本人の友達に責められてしまうこととおっしゃっていました。僕は、日本にいるのに困ることがあるのは大変だ

なと思いました。

3回目は藤村峯一さんの話を聞きました。会議でまとめようとするのは日本人のやることだとおっしゃっていて、もめることが大切だと教えてくださいました。また、日本人の足りないことは自己主張で、良いことは一生懸命働くことだと教えてくださいました。しかし、それで損してしまうこともあるそうです。

4回目は信氏健人さんの話を聞きました。信氏さんは、日本財団で働いていて助成金を出したり災害支援をしたりしているそうです。災害支援をされていて思うことは何ですかと質問したところ、ボランティアは自己満足であるため、迷惑をかけないようにしていると答えてくれました。被災者とのズレがないように、何をしてほしいのか聞くようにしているそうです。

ディレクトフォースでは、ためになる話をたくさん聞くことができました。少しでも自分の将来に生かせるらしいなと思います。

#### 弁護士さんから話を聞いて

僕たちの班はアディーレ法律事務所に訪問させていただきました。僕たちは、弁護士の岩沙先生からお話を聞くことができました。岩沙先生は主に刑事事件、労働事件、家事事件を担当していて、刑事事件 6 割、労働事件 3 割、家事事件 1 割の割合で仕事をしているそうです。しかし、アディーレ法律事務所内では刑事事件の担当の割合は低く、毎年業務は変わるそうです。弁護士さんは 1 人で多くの種類の仕事をしなければいけないということが分かりました。

最初に、刑事事件について教えてもらいました。刑事事件は痴漢、盗撮、交通事故、窃盗があるそうで、窃盗は、食べ物がなくて盗む人は少ないらしく、盗むことに快感を覚えてしまった人が盗んでしまう場合が多いそうです。これは意外だったので、驚きました。刑事事件に対する弁護士の仕事は大きく分けて 3 つあるそうです。1 つ目は、刑事の取り調べに対抗すること、2 つ目は、検察に不起訴意見書を提出すること、3 つ目は、裁判に出席することだそうです。僕は、刑事事件に関しては、裁判にでることぐらいしか知らなかったのでも興味深かったです。起訴されると前科がついてしまうので不起訴意見書は大切だそうです。

次に、労働事件について教えてもらいました。労働事件に関しては残業代請求と不当解雇があります。残業代をはらっていない企業は大企業でもあるそうで、不当解雇は中小企業に多いそうです。弁護士は解雇されてしまった人の代理人になります。被害者は最終的にお金をもらってやめることが多いらしく、元の職場に復帰する人は少ないそうです。

次に、家事事件について教えてもらいました。家事事件は主に、浮気などを扱っているそうです。これも、いきなり裁判ではなく話し合いで解決できる場合はそれによって解決

をするそうです。

弁護士の岩沙先生にいくつか質問をしました。弁護士として働くうえでの苦労は何ですかと聞くと、依頼者の対応と答えてくださいました。依頼者は相手に対して憤りを感じているので、鬱憤を弁護士にぶつけてくることが大変だとおっしゃっていました。弁護士の先生たちは大人の対応をするそうです。次に、難しい仕事はありますかという質問をしました。離婚についてと労働事件の残業代の計算が難しいと答えてくださいました。離婚した人はお互いに仲が悪いため交渉が進まなくて大変だそうです。親権や養育費や財産などの多くの条件を調整しなければならないと教えてくださいました。残業代の計算も過去 2 年分の出社状況をエクセルで打ち込みます。僕は、文系のお仕事なのに計算をしなければいけないと知り、弁護士になるためには、いろいろなことができなければならないのだなと思いました。これらとは逆に、簡単な仕事は何ですかと質問すると、金額が裁判によって決まる家事裁判だとおっしゃっていました。弁護士の先生たちは法律などを暗記していると思ったので、どのようにして暗記しているのですかと聞くと、岩沙先生は脳のメカニズムを勉強したとおっしゃっていました。何時に何回やればいいのかなどを調べて計画的に勉強したそうです。次に、依頼者の対応で心がけていることは何ですかと聞くと、心に広いダムを持つことと答えてくださいました。コミュニケーション能力が大切だそうです。

アディーレ法律事務所に訪問して、実際の弁護士さんに仕事内容について聞くことができ、とてもよい経験になったと思っています。質問にもたくさん答えていただき、有意義な時間を過ごせました。これから自分の将来について考えるとき、この日聞いた話を参考にしていきたいです。